シーズ名	周術期口腔機能管理、口腔癌ウイルス療法、口腔粘膜病変
所属・役職・氏名	中原寛和・医学研究科　歯科口腔外科学・准教授

＜要旨＞

臨床においては、周術期の口腔機能管理を行い、医科歯科連携の効果を検証する臨床研究を実施している。臨床研究においては多施設との共同研究において多数の症例を集積し、周術期の術後肺炎の予防、術後創部感染の予防に口腔ケアがいかに影響を及ぼしているのか検討している。

口腔領域の疾患においては、粘膜の悪性化の分子メカニズムの解析を研究テーマとしている、悪性化してしまった口腔癌の治療においては、ＨＳＶ-1 ウイルスを用いたウイルス療法による低侵襲の口腔癌治療法の開発に関する研究を行っている。

＜研究シーズ説明＞

口腔癌は呼吸、咀嚼・嚥下、発声、構音などの生活上で重要な機能が集中した部位で手術による機能障害は大きな QOL の低下をもたらす。そこで手術による機能障害を避け得る、新しい治療法の出現が待望されている。このような難治性のがんに対して、安全でかつ強い抗腫瘍効果の確認できた単純ヘルペスウイルス１型を用い、舌癌などの口腔扁平上皮癌の治療に応用し得るかの検討を行っている。口腔扁平上皮癌はリンパ節転移が予後を左右する大きな因子となっている。そこで、われわれはウイルスが局所の殺細胞効果のみならず、転移リンパ節への効果も検討している。さらに口腔扁平上皮癌の特性に応じた特異的に効果を発揮し得る、がん治療用ウイルスの開発と作製を行うことを検討している。

＜アピールポイント＞

- 単純ヘルペスウイルス１型を用いた口腔癌のウイルス療法
- 扁平上皮癌の浸潤・転移の分子機構解明
- 口腔粘膜の前癌病変の臨床、分子生物学的研究

＜利用・用途・応用分野＞

難治癌のTRへの参加

＜知的財産権・論文・学会発表など＞

1. Hashimoto T, et al.Y *Br.J. Dermatol.* 2019
2. Iwata T, et al.. *Surgery*　2019
3. Soutome S, et al.Y *Medicine (Baltimore)*. 2017
4. Hayashida S,et al.. *J Bone Miner Res.* 2017
5. Nakamura Y, et al. *Molecular Cancer Therapeutics*　2016

＜関連するURL＞

http://www.med.osaka-cu.ac.jp/departments/byoutai-oral.shtml

＜他分野に求めるニーズ＞

キーワード	口腔癌、口腔粘膜の悪性化、がんの浸潤転移のメカニズム、ウイルス療法